

報道関係各位

2018年6月29日

株式会社ソリトンシステムズ

トラック隊列走行にソリトンの超短遅延映像伝送技術が採用

- Glass to Glass での遅延が 50ms まで短縮 映像伝送技術の最先端 -

株式会社ソリトンシステムズ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：鎌田信夫 以下ソリトン）が開発に成功したモバイル回線を利用する超短遅延映像伝送技術が、トラック隊列走行実証実験に採用されました。

本技術はソリトンが開発し商品化している独自の映像伝送プロトコル RASCOW™ (Real-time Auto Speed Control on Water-way model)を大幅に改良し、Glass to Glass での遅延時間^{※1}を 50ms まで短縮したものです。

今後普及する 5G ネットワークでは高信頼低遅延通信(Ultra-Reliable and Low Latency Communications : URLLC)技術が標準化され、無線区間の遅延が非常に短くなるため、リアルタイム映像を利用した建機のリモート操縦や自動運転の遠隔支援など、多方面への活用が期待されています。

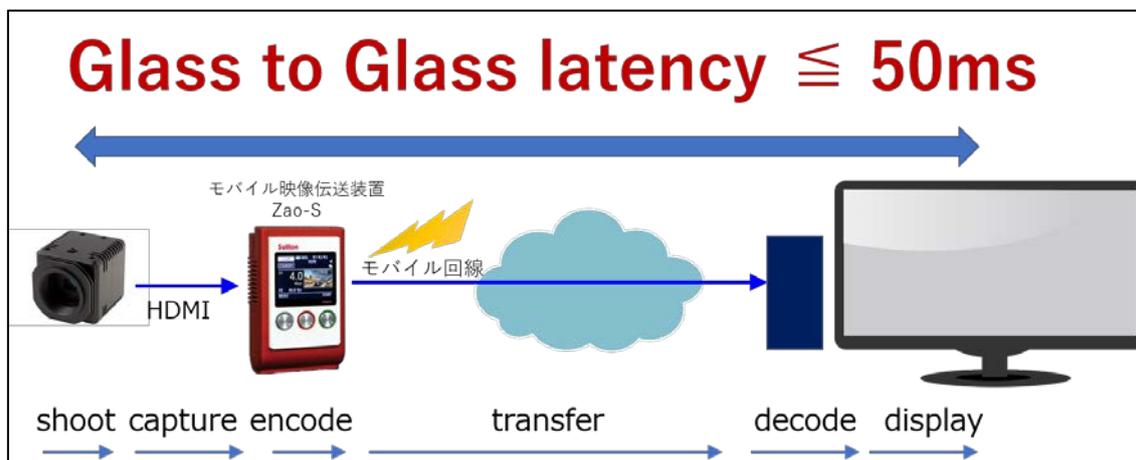
きたる 5G 時代を念頭に、ソリトンは映像伝送のプロセス全体に着目し最適化を行うことで、Glass to Glass トータルでの遅延時間を 50ms まで短縮することを可能にしました。

超短遅延の映像伝送技術は、自動運転技術を使って 1 人のドライバーが後続のトラックを同時に運転する隊列走行実証実験において、無人を前提とする後続トラックの周辺映像を、先頭のトラックに乗車して運転を担当するドライバーに対し、短遅延かつ安定的に表示するための通信に採用されています。

なお、ソリトンは LTE などの公衆モバイル回線を使って、高品質な映像をリアルタイムで伝送する「Smart-telecaster Zao-S」の開発、販売しており、独自に実装した H.265 圧縮技術と映像伝送プロトコル RASCOW™により、揺らぎの大きいモバイル回線上でも安定した映像伝送を実現、報道分野やイベントのストリーミング中継、警察、消防などの公共機関まで国内外で幅広く採用されています。

※1「Glass to Glassの遅延時間」とは、映像がカメラのレンズに入ってから表示装置のモニタに映し出されるまでにかかる時間を指します。

【超短遅延の映像伝送 説明図】



【株式会社ソリトンシステムズについて】

1979年の設立以来、ソリトンシステムズはIT・エレクトロニクス業界にあって、常に新しい技術トレンドを見据え、いくつもの「日本で初めて」を実現してきました。近年は、認証を中心としたITセキュリティからサイバー対策製品まで、また、携帯電話回線やWi-Fiを利用したハイビジョン・レベルの映像伝送システムなどに取り組んでおります。国産メーカーとして、オリジナルの「もの創り」、「独創」にこだわった製品とサービスを提供しております。

設立：1979年、売上165億円/2017年度、東証1部

<http://www.soliton.co.jp/>

【本件に関する問合せ先】

株式会社ソリトンシステムズ Mobile Broadcast 事業部
TEL:03-5360-3860 Mail: stc-sales@list.soliton.co.jp

【このリリースに関するマスコミからの問合せ先】

株式会社ソリトンシステムズ 広報 Tel: 03-5360-3814 press@soliton.co.jp